



東京工芸大学・風工学共同研究拠点・研究集会（2021年2月10日）

## 日本版改良藤田スケールにおけるDI、DODと被害風速の評価

竜巻の強さの尺度として世界各地で用いられてきたフジタスケールは、被害程度の認識方法や風速の推定方法が明確でないなどの問題が指摘されており、米国では建築物等を対象として策定された改良フジタスケール(Enhanced Fujita Scale, EF スケール)が用いられています。本共同研究課題では、日本における竜巻の強度分類法として、国内の被害指標(Damage Indicator, DI)として適切なものを抽出し、それらの被害状況程度(Degree of Damage, DOD)の分類と対応する作用風速(または等価風速)の適切な評価方法の共同研究を進めてきました。その成果は、「竜巻等突風の強さの評定に関する検討会(会長: 田村幸雄)」に提出され、2015年12月には、気象庁から「日本版改良藤田スケールに関するガイドライン」として公表されています。その後も継続して、DIとDODおよびその風速について、より安定的に評定できるよう、被害情報の収集、被害指標(DI)の洗い出し、被害程度(DOD)の分析、時空間的に非定常な流れ場での構造物や樹木等の空気力の性質、構造物や樹木等の耐力、強度の評価方法など多岐にわたる研究を行っています。研究集会において情報交換を行い、今後の研究活動に活かしたく、奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。次第です。 小林文明 (防衛大学)

と き : 2021年2月10日 13:00~15:25

と ころ : オンライン開催 (Zoom)

参加費 : 無料

申 込 : 下記フォームにご記入ください。後日参加情報をメールにてお送りします。

<https://forms.gle/7jeMC1kp6HA8jntJ7>

問合先 : 東京工芸大学・風工学研究拠点

(TEL: 046-242-9658 E-mail: [jurc\\_office@arch.t-kougei.ac.jp](mailto:jurc_office@arch.t-kougei.ac.jp))

### プログラム

時間	タイトル	発表者 (所属)
13:00-13:10	開会挨拶, 趣旨説明	小林文明 (防衛大学)
13:10-13:35	2020年の竜巻被害および評定結果について	加茂 直幸 (気象庁大気海洋部)
13:35-14:00	フェーズドアレイ気象レーダーによる市原竜巻の詳細解析	足立透 (気象庁気象研究所)
14:00-14:25	二重偏波レーダーで捉えた竜巻飛散物の時空間分布 ~2019年10月12日千葉県市原市に生じた竜巻を対象として~	梅原章仁 (気象庁気象研究所)
14:25-14:50	2019年台風15号に伴う強風による送電線の被害状況と鉄塔の耐力評価	山崎智之 (東京電力パワーグリッド)
14:50-15:15	船舶の強風被害と被害発生風速の検討	曹曙陽 (同済大学教授)
15:15-15:25	閉会挨拶	田村幸雄 (重慶大学教授、東京工芸大学風工学研究拠点プログラムコーディネータ)